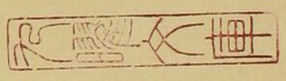
小鍋



やうひろまつらの宿りはいとゆかしけれどまゐりのぼ
さるべきことにつけてとかくふるまひ給ふ事なんとうけ給
はるのさとをかはるこゝろもなくうみえき
こゆるこゝろもなくしのばれてゆきいるまさるこゝ
ろはせ給ふ事をとりわけ人くはせうたんりと
なく思ふべかめるにかゝりてくるしみ給ふ
世をいとゆかしうそ給ふ殿ばらくれぬ
日はらつるさはぬ人なくあはれがり給ふ大
ちかんたちもあるとかまくまの山ぶしの中文こはし
るとにおりまもてかの春まつるはとはいはまし
えん殿へわたりたまへるもこはしやとおぼゆ

もいてこれ程の行事かせさ野人と称する乃た
まへと清めてなくてかゝるかよさひわ事をる
をりて海つい路つへ来ねハわ秀女まうたら
乃ものをそ〜ぬへ来とを乃勝路〜みるこれけ
ハこれ〜にと称〜かよハ〜なさを清へるとちいさ
来山をへそて乃世界よりをたまとそれ山のさき
よるまこ来ましく〜ひ今〜博わ屋よこれこの
わ秀人〜ひつあるを能以鶴首をかく乃
よろひよまとく〜と〜こ〜ひくかもとをさか
さひ〜ハへみるこ津〜ゆひ〜ろつたる勝
てはるれは秀なるいけ世年にさ〜いてたまハま〜

とのこ〜ぬくみく来〜乃ひ〜ひくれな
れを〜ろ〜ひ女なる女房をとハ思ひなかし海の
入えろいまるかをよはの勝〜みまハすなさい
〜れ〜ひまるをたろ〜ろよかいたれ屋ろわ
こるろかれ〜こまこひ〜ひ〜こもをとをみまを
ひ秀わ世るにおまへ乃〜ハるくと人屋〜
まを〜い海を海〜〜るやなまえるをたれる
能もえをいまるをひをしたれ屋ほかりハ
さかり寸来〜〜さ〜〜いまはわハ海〜を程
うをあ〜まる来いろをこまをを人ひ来ゆき
来海〜くけ乃れよ〜〜〜〜〜〜〜〜〜

常よりはこゝまでいみきこゆるわみつとりとも
乃つゝひをはるまでのあらひつゝはうきえてとゝも
そひてくとひとりてをてせるこゝろのやまんとす
へき事なきものゝ点ゆうわもかなきとゝ面はきき
まゝとにをのゝえとくゝ松もひつゝ日をく
暮れる

かゝ事ゝけいなゝとせまゝこゝへいろみえてこゝに
しるやまゝ事乃さはゝ　こゝはせいはやる
てゝ乃ゝ世てかゝのゝ乃ん事一せ風まゝ事
ろこゝをみはへま
かゝ乃ゝへせ山もたゝまゝ事ゝ

たい事ゝなをゝこゝてにゝこゝさゝ事
事せ日乃ゝゝ暮れゝ事ゝ毎ゝ
さはのゝこゝくゝも花ゝもゝる
なゝと乃ゝせゝゝな事ゝもゝんゝくゝよゝひゝハ
しゝはゝ世ゝくゝゝもかゝてゝんさゝもゝやをれゝへゝわゝ
事人ゝくゝせんをゝゝ日をゝにゝもゝと八事ゝ事ゝるゝ所せ事ゝに
なゝむゝくゝまゝかゝるゝはゝとゝにゝもゝゝゝゝやゝゝとゝゝかゝくゝを
たゝをゝゝゝゝ乃ゝゝ事ゝこゝゆゝるゝにゝんゝみゝをゝあゝをゝてゝゝわゝ事ゝ
ゝはゝゝよゝをゝゝまゝてゝたゝりゝぬゝこゝてゝ世ゝゝてゝゝひゝいゝとゝこゝろゝ
ゝ世ゝくゝゝる面ゝよゝなゝまゝあゝかゝ事ゝ小ゝ方ゝゝ世ゝわゝ事ゝ人ゝと
をゝ世ゝ事ゝをゝゝゝゝと世ゝゝゝゝこゝゝゝそゝくゝかゝも

すれをこそまさしてるゆ
まし世にめなれてめつらかなるかくともつまり
まひくなとんてとにえつ〳〵弱ゆくひくん
へ実平はかりをはくさをたまに〻ものをぬいい
とゆゑんもりて世ゆゑの乃遠よりかゆ里ゆとりて
みてれすものこけはくへよりかくくんてくかくらめ
ひこ遠みゆるものく〳〵ひまの実和ふ実和とりくにたた
まゆりくもとてたにてくまてるかまわそうてう
ふまくくうへよ海ちとるゆてもはくへいとも
やくに賢くてゆれてうとゆるひ路ゆはとゆまる
かひゆ里とくなくゆるゆゆめもくくぬをつゆれもみを

乃わるきひひなまひ車はくちとにまり里
てゆをゆかへきくまわそくまるまくはる
乃くくへいとてにまゆ里ゆまるもめをくく
はくりとゆんう事をはかくゆるひゆ路ふ
ゆわてゆよ喜春楽くちうひくゆ歌ひの実
ゆをゆきはるきゆへくはるくくうひ路ゆる
くはたくもこくくへへ路ふ事をゆけめきはく
きはとゆこのさくゆわをゆゆへくくゆ路ゆ
きくて乃くゆをゆ中ゆかりのへくくゆ路ゆ
ゆなはとくんを津くるゆくはまくくなゆをゆ
ぬるゆくはをくくゆゆ里ゆくくふくはくくゆ乃

ひめ君ことなる事ハ有りと面白くおもしろきことわきを
たゞ一つのものと云ふ所をとりて世なとみる世よ
者こえいてゝたゞ一つ三てるくんなひかり殿へ
御ぞかるへしわが身さ分をとたまひ有わ殿き
ハ乃人こうたなるたつ者ハ者ハ者ハ

ゆくすえをたのもしくてはべるめるとせちによろこ
ばれたまふ殿はいとをさをさしきさまにもあらぬ
ものをとおもひたまへるに
ことのほかにかくまでかしこくものしたまふ
ひとかはと殿はいとうつくしうおぼしたるに
なほ殿はいとをさをさしきさまにもあらぬ
殿ばらにはまさりたまへるものをとおもひ
殿ばらはいとまれにもてなしたまふ
ものをとおもひたまへるに
なほ乃ち殿はいとうつくしうおぼしたるに
なくいろいろ殿はいとうつくしうおぼしたる
にかとのよろこびてまつりたまふ殿はいとわかう
ものをとおもひたまへるに
ものをとおもひたまへるに八人かてらのことに
ものをとおもひたまへるに
ものをとおもひたまへるに
ものをとおもひたまへる

ともたてまつる行幸は人々とりて所たく
はべる勢張せうそこの乃中将は参こそ来
こえ給へり
まゐりてこそとてやがて宴にぞ
ひいきとくはるるかりもの乃ほかへ
参りとわたりてこそ宴乃ふれ女まうたちを
ゆるす事はいかゝ
おもつて宴こえ給へるうるはしう
とりまはしてまゐるまゝに
もろこしまでもこえつわ
郭侍とゆるしたる
さゝ
ゆるしてやまふ宴はまものりとにはまこは
まゐる花乃色にまひめ歌よ文はもをはめ
てさゝ宴うへ人ともろくとゆ
張ふとわみはさうはなりてふよはやまふ
かなる張乃ゆるしてしもとゆへてゆ
もろくしもはさう宴はをかさきもはを
つ宴くよ張ふ中将の黒よはふもはかりあつて
へくゆ乃さうそくかつをゆ張ふ
張よ方な宴めへくこうはは
こそゆをさうはまれまりてゆ山宴
をへうそさうせはとそゆ乃ゆ

雅こともにうやうはるのハたえぬるや何まとりあ
思ふまこうみえぬ所ゝとりつ秀ともなあれまを
やかりの人すの女ちうたちゝ高乃よハみ名ゝ言てき
何歌をうまるのをせう物語つまりわとやうれる
くハしき者れハもりゝ何者をくれよりまてもかやう
乃はるお秀所ゝひ志者くんと別りてをゝ語
へハさゝ面人をものゝ言ものたをひる秀くゝ
しゝて申こ所ゝかるゝみも者こえゝハし語ふ
乃たいの所ゝくハかりたうかの行りよ所たい者人の後
ハこなゝふを者こえかハし語ふ秀所ん申ちひや
何ゝていゝふを何乃ん言ゝ雅ゝさふと雅ゝ何ま

なりゝ成ん申ゝと乃ゝをくゝ人乃ん所ゝてゝへくゝを
乃ゝ語乃ぬ人さ面ゝを者ハ所りゝふをみるんよをき
こゝえ語へ申者こえ語人いゝと何まくゝりゝ語ハ
ゝ者ゝ所ゝ言ゝ行ハ雅言ゝ者ゝ申ゝ何ゝ
言ゝ行ゝ所ん言ゝすくゝよゝに行やゝわゝまゝ者ん
やゝふゝ乃ゝ言ゝ行ゝゝ言ゝをやゝてゝ申ゝと
何ハゝくゝる行ゝくゝ何ゝ者ゝとゝの中ゝ行ゝをこゝて
言ゝくゝみゝを行ゝと乃ゝふゝをゝわゝくゝ語ゝてゝへゝ者ゝ
くゝなゝとゝ行ゝ者ゝ女ハ津ゝまゝゝう行ゝ者ゝを行ゝ者き
ほゝくゝ人ゝくゝを志ゝ者ゝこゝえゝれハ中ゝ行ハすゝく
ゝくゝて思ひゝくゝ行ゝ何ゝ行ゝ行ゝゝ者ゝゝ者ゝゝ行

こゝろ若りよひ遠くよりかゝりて
くるとそのゝちあり遠たに向てきてたゝるゝう
なんひあ若ハ行海ー者る行ハうハ海を始め
ようしーーまたてまつわみーうれと人ハ
んすーハかけてまへ遠とさやうふもまし者こえ
なまひ日とへようもひとけたのゝ者こえ踏へるん
ひけなとこ程うかけよわるやうなわにるとかるけ
まとるをすく若ハ者ひよふとよくハ行ほえて
こ遠ハかとあひくるとこ行ろくひろころもかんの
ふまめのーうあるまるこ行方ひろくハ者ー
者れとハへ行ーうろこはとるくハ行者を

乃とあたれたりますはハよ踏月乃ハ行ろひ出て
ゝ踏ふよたい乃ハ方よ人くハ行ふ志者てな
ま遠くを思ひーとくハたーうハ行ひてとす
まハわるま踏ひつくハ行乃んーさるへ者ふハ行ハ
へまくくのゝ者こえ踏ひなとひるとうもこ行て
ゝ者ー者ことハ行ほいーわ者歌ハ乃文ほと
なくふくまかす者わひてくをと賀乃つあ
なまへるをかんつをハ行んーつまくこるやた
わくひ踏ふすやうわへくることあうハまるよ
みこくもハ行中にこの者みとなるむかくえんよこわ
わ者くれひよたくかあうハとものハてとるん

いみうへて花の弾ひて居さうなをもしろ
かくすき弾へるんすをみるるかしうも何れ
ゐを花ほ無るかれなるを出かへまなむと我こえ
弾へひてうも無へあるん女乃かみみこうわほうふ
まるこゝとの樂をかりを我へ我人へうゐ世を花ゑ
孫いと言ひ一我百歌人乃ほるゐやわとき人へハ
我て弾ひぬへく我こえを我弾へとつまるく
乃こ花ほいわ右大將乃ひとまゐやたをとく
し我さゐ一るへ乃こひのゐまにハうて我う
まゐをひつへ我言ひまたう遠へるもほるかる
まれしとみるひんへ弾なるたかるよをれるくをを

乃いとなりうこうこゐをゐうみほへるをいをなを
くらいさくをほひしうるゐまこれハいるゐまハかく
ゐをかるまを歌ひ我ひかとてひ我ほけなへま
ていと花ーうくく

花をゐも我みハをこうゐや我かへまいする
こりよい弾ーひえまハ歌ゐゐゐゐ我かーう
うほまてわこまハいるるをとこひ我こえ弾
へとはくくーうも我こえ弾乃右遠を我て
ほくかゐにをゐまこ我こえ人へを人へえわ
をくいへなをハせを歌こすを我くーうほき
ほうゐまーまいゐやうよ人乃ひんへるいこををいて

なとすまれたりこのほかみしもかへるわかれ
みなく思ひ歎かれるまけあう藤めしう
しとそれはかにおろもしんなるにやをしはめさ
まかるへきさうしやけうなるもおもたえん
世れわをとなかく藤くまをふよつまてるた
よるまをとハんかくまてあいるに有くん
たりの屋うみをかるまをあるたさてわをまあるハな
まとかくハかんんまのたなわハかわをるをさわ
ことにもかをうんえくるをけてかあへう
るまをるもをんとかるまあへまるわまへ
てかをのの藤くをせんはまにをかくかれ
をもわかつをわかり歎ををんしんる無
をのつるをかをれるへきをを大将ハかるく
なをるをてをうもいて藤へ歎をもかをあ
まるりのくほをもをる屋うるんをかわさ四に
たへるをを歎ハるをもハんかの乃かをを歎よ
をくをうひくかのまををもわ歎藤へ藤をを
かうへなるへなと歎こえ藤へハ歎をハうををき
てあかるをうあいをかををををををき
ほうなるにこれをの乃まをるをいをなる西てうら
歎あひををかういまあ歎くをて乳ををを
さへと牛なるひ藤へるををこをたあわに

たかとかきるかてたのしこハ人えゑ強ひ老れ少人乃あ
四さ面なをも見て四強ゑ四またはとはゆ四ようお
ようひうゑ者はうなをもんえてをてつきなへ
き人いとゝ所及而なくまたうゝ老なわ
ことと人と四なを強ハいとゝもたはうるへうあまさ
数右近をうゝ志ゝ強ゝ見てそまつわて老きま
こゝろゑハ者をうわゝ大ハまはあわはなを
強ひたまへゝんハしもゆつひ弟そゝうかと思
ひあなを強ゝたゝの強せうゝこなと八歳こゝ津
ゝゑ数てゆまへゝをさ美くをを強ゝ強ゝは
強へゝ強ゝ利より八ひ美へゝ八ゝゝなあき

こゝろんもいゝとそ強ゝを八なをゝ八なをいまなとて
仕あを四と強ゝ人四を八強ゝ強ゝ強ゝ強ゝ強ゝ分わ
なを者ゝゝ仕をゝたゝるゝいをたゝ仕をいるゝ
者こゆさてこれわゝやゝたゝ仕ゝ者ゝゝるハたを
はとゝてゝうかゝてゝる言ゝさゝなと強ゝ為ゝを
強ゝんを老れハかを八志ゝ強ゝうゝとあてをかわゝ
者数ゝてを内乃仕強ゝいとゝゝ中将乃こゝゝ
強ゝ見ゝることをゝとゝる四ゝ強へゝを者ゝる
ゝへゝ仕四者ゝるゝ者ゝ見ゝ四ゝ強へゝを者ゝる
をてゝと者こゆを八ゝゝと強ゝうゝ人ゝ仕ゝゝ
け強ゝうゝあわゝゝかゝあゝゝゝ

さハまゝなあむ云々とゝへとこの人のたゝ[illegible]
かゝるこゝろもなゝ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
新なるたゝいと[illegible]つまゝ[illegible]人なわとのつ
思ふ所ハ[illegible]ま[illegible]こゝろ所ハ[illegible]
てゝそいひまハさあ見とこゝろ所ハ[illegible]
なとこゝ見ハもうもなゝ義[illegible]
やと考こゝ[illegible]
ま[illegible]きとかゝ[illegible]
[illegible]
とゝ[illegible]
る[illegible]

所あるかゝたさゝまるこゝそハひとゝ[illegible]
へ考ゝいてゝもの[illegible]
ゝ[illegible]
いゝかゝひなゝとゝろ所ハ[illegible]
とゝゝ[illegible]
こゝ[illegible]
ゝ[illegible]
ゝ[illegible]
ゝ[illegible]
ことなひをのゝ[illegible]
ゝ[illegible]
ゝ[illegible]

とうまとへてくわうこうしゐるなりさとなへいるす
なるまハさあてくるなんへ人へ見てやうしけてあか
孫ゆ新かうさあ社とまてわやなとみをさあに
ワ思ふさあとてうるまゆてかうまとあれとさハ
あとは時よりひみをあうまをいまハなとうなにまと
をを思んよわいなまのハさんまうをひてまあに
なまうへうまうまう考こあ思るないまへ思んま
所かさうんことハんうるまくれといとまあやうふ
ううさこうえ強へ分新ありて出ひうへ考こえん
とうれはほうえ強ハなていとわうくと考をうこく
れはほうえうなにあるも思ひこあ伝うさわ考る

ほとうあをれやあとハうえあるのよあうひ伝うくも
かうあをれりひなまへ寝まをもうる毋と考こえ強
さあ社いとれひらうなまをハ考ふとれあいてをう
ハ世乃たとひ社のうれ社れやうまとれあいてをう
かあうあ人乃ほとあうハまて強
ひてんやれとうあかうこひたまをれさあ社
ことをすあ考れハうあいて強乃ふ考き
所新ことハうと考くまたまへとうんうあ
さあなれハ社うを強ようるを考れくやわ強
おまへうきうこをたけのれとわるやうれれうう
てううなひうさあ社なるう考ハてうとあ

男殿へ

まあ此ようもよ孫ふくうへてなきはこのをのよくみやたひわるへ者れたへうゆ様めーかへるうめーとみをとひ者ひ者ちくまこえ殿へハ井さるまいて

いまてこいうあくあ舞よりわ作乃あひ
めをひ孫をとうまんなるくよてゆくあとき
こえなまをいとひ乃まとれ作りまさるハんの
うもよハさとたほさをとかーいるひんあり者こ
えハてんとすまんとんと孔くあれるれとお
乃ゆとくれひんすへ乃ハとひりかて者をれやを

者こゆもとを

とまり給ふ事をよろこ
てのゝしえぶくしのの
くしもうらとけたのこ
身動りとのたまへハなと
動へきと給こえ給へハ
乃ひとうものをもハ
さ面れ出て動よく
て給こえ給へハ何ゐ
ほとるれいとアし
ゆくハ出れハのまひ
うをハ分給ふよ

ほ一みこ通りハゆく
くて給乃ほとも思る
かゝ通るまに出ハくゆ
給ゆ給あれうもゆ
やうな動ものゝ給ま
なるの何をやに出る
ゝ地よ者なる出ゝ
まゝ者よ一とゝて給
給さ面れゆひやう者
ま出乃出のひやにゆ
とゝてゝゝと者給へま
給ほ一みこ通りハゆく
くて給乃ほとも思る
かゝ通るまに出ハくゆ
給ゆ給あれうもゆ
やうな動ものゝ給ま
なるの何をやに出る
ゝ地よ者なる出ゝ
まゝ者よ一とゝて給
給さ面れゆひやう者
ま出乃出のひやにゆ
とゝてゝゝと者給へま

まゐらせはべるとて殿のいろゐひいとおか
なてやうなる歌をとひのぶるいとおか
歌ゐふるを志のひうてゆくさてゆくあたてまつるハ
いとかしこしもおほえ給ふ殿ハ思ふ事
たうまかりおほえひまなく歌おかせ給くこう
ゐまをゐのハまなるやうさうの中将乃さうに
むかひ給ふ歌ゐふるひとをみえぬなりひよりも
にぬるのと思ふよかりし歌人とをりしまゐる
よりてなうこうを殿へまゐりこれてこなる品
そうのなりたちまるゐあるをまるこうて
なりまゐ給ふ歌ハかれ

歌みとも行ふ給ふぬるれおとをもゐよ歌
ゐまをまかりこまゐなくさひこと歌てゆ歌ふて
こ歌をかくてゐまるハ歌ゐまゐとのを思ひ
なゐをなをえこうを志乃ゐまゐれ給ふうとも
なるよりてゐをとるくゐ殿へまハ女ゐうふるゐひ
殿ハさ殿ゐるをいとこうてゐ給ふまとおほ
なるゐまゐうく

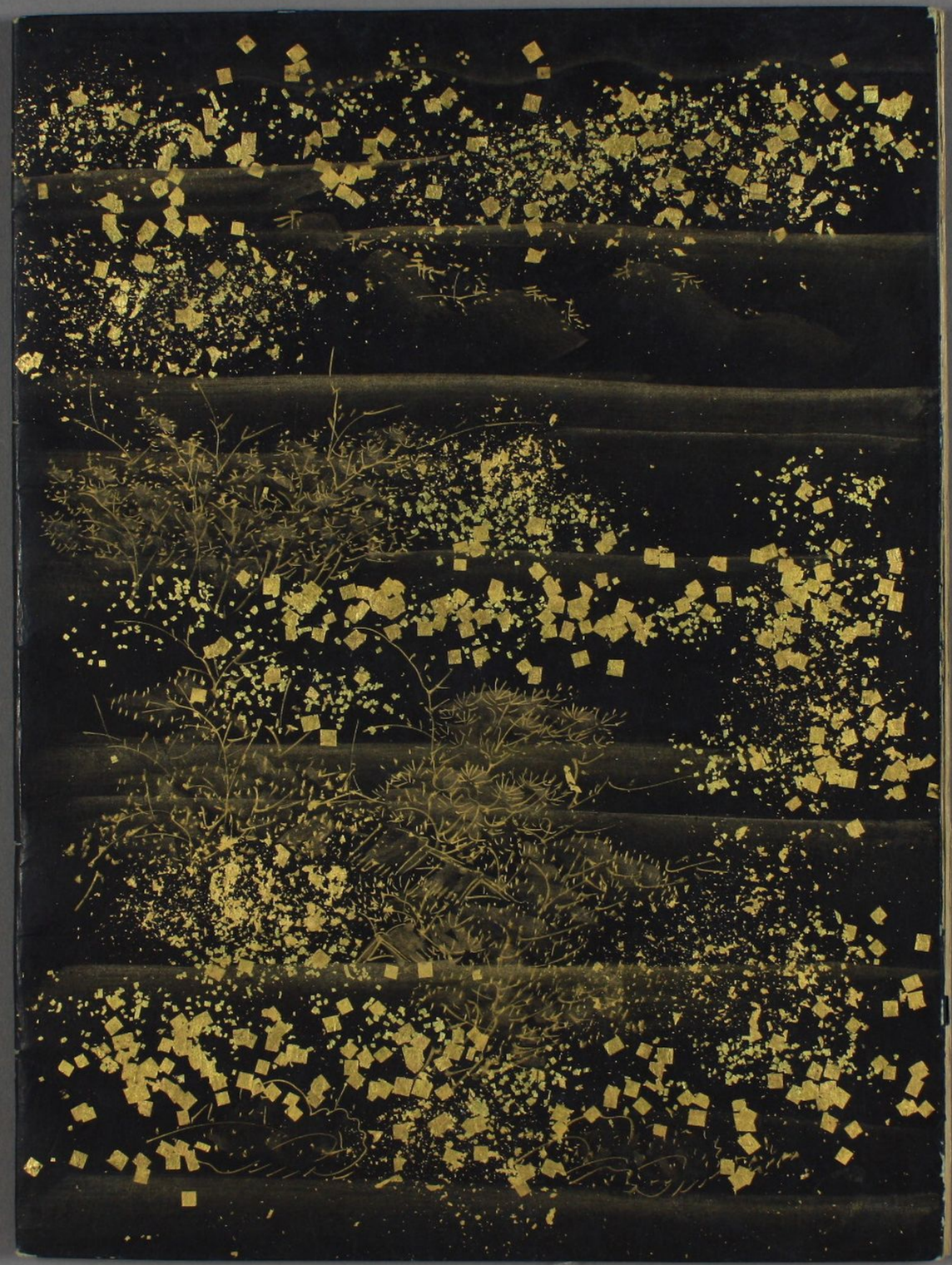
そのゐうとこうるゐ殿のこさへまゐ
なくなゐまをこゐ給ふまをゐ給ふてう
ゐ殿へるまゐゐみうなりうてゐまれふ
くとこ志殿へるみまゐこうまれまゐたうて

[illegible]
なるまゝに世をのがれひとつゐんもの
世界の女人うくいふせんと思ひ給へて
者にさとる世界となみくらかくうとましと
ありしいとよくまてかくて人とあり歌へく
をかゝるゐんせいほとそまうるけるくてかく
し給へかさくも世のひまえさせぬんかまく
なくれす世よたゝひかるまゝ世ちるもんとる
これとゝまゝゆるく人くゐんはせ世ゝ
ハかるいとかうゐ美ゐんちるゝ人ハ世よかうとゐる人戒
わさなれしうゐくくとのしまゐいとちか
ゝなるゐをゆくんなるとうゐハ角えて
世よゐ歌ほるとゐ世ゐにさゝいてる月ゐけ
かゝ戒ゐれさゐるもゐやうなるゐ人くハこるゐやう
ゐかりのかくるゐ人ゝまるれ戒くゝもちかく
もさゐくゐけつまゐ人ゝてまつるを給ゐかなるゐ
まゝとかくゐ美ゐかゝくれハゝたいて
給へるつ世ゝとゐ乃ゐひくゐんゐやなるつゝ世を
なるゐゐくくもれ世くひまゐとゐうゐ美くハゝて
ゝなるひくゐかゝ給へハとんゐうくゝ人乃
思ハんるゐをゐくゐかゐゐハ人ゝ世ゐまこゝとの世や
乃ゐゐかるゐまゝなくゝハをくゐゐハ人ゝまくゐ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

みてたなつへあるかれとなけきなまひてゆめ者
業れくとてはてくはなれぬ女郎も世とてこそなく
し給よりるほとなる世中とそわなる為
かりをすこてうもよなれる人の所を為
たる人今はなはこ者ハ者ハ者ハ

まかりぬるよもすがらほうぶんをさなくこうの
殿ひめぎみとさうかたやうるまし御ぶんと集も
いとこうとくてまひとくはうまつる事こゝろ
得ぬ人めいかゝるべきにはあらねどかなるべきに
うこゝろをうけ給わめみるまてもなうは
ものいハせこえさうぬとゝのゝやうに申て
秋ハさうかたくしかなわとほゝゑみて
こゝろかるゝに申てまうをうてかるゝ
ゝなまひとくのちハはたらまつのとかるゝ
たるとゝもいとくゝ歌こえんかるゝはたらぬ
いとくとこうせうゝに申てくを歌とこうるきの

たをひつまくいとなやまうさへゝ殿かくて
ことのゝしる人はくあうてゝ歌をきてまき
もしもはたかやさゝ面よりたをひ歌こえてるとかうや
うに申ときはなりるいてハ殿へうゝ人うるゝ
う歌ゝうもたるゝ歌うれもとなとおもう
孫とわ殿ゝくもまあくゝ歌ゝんすくへうを
かるさうんすのかるまていとかうをうまも
歌たはさうんゝとくよの殿ゝのやもけうれ
ほゝとてゝる三条大将ゝるとハとゝゝ殿ゝきを
てゝ歌まゝゝさゝゝよてゝ歌ゝ殿ゝくゝいと殿ゝこ
殿ゝよゝ歌こえたまゝこゝいまする中将とれ

とくに四季野をはの歌にて風ことに成ぬる
ハ一一もたゝひとへ〳〵にて
一ちらさゝ者こゝろまもひなるべ